

【坂】上がりの街・西部

西部市民センターだより

発行 青森市西部市民センター
〒038-0042 青森市新城字平岡 163-22
TEL 017-788-2491
FAX 017-788-2495

西部市民センターまつり盛大に開催 10月14日(土) 15日(日)



津軽なでしこ



コールしらかば



ナーメアフラ オ
ホアカレイマカマエ

10月14日(土)・15日(日)に、西部市民センターまつりが開催されました。作品展示や作品づくりを体験できるコーナー、バレエストレッチ無料体験、ニュースポーツ体験、食堂、ちびっ子出店など、とても賑わいました。15日の芸能発表では、ダンス・踊り・コーラス・カラオケなどたくさんの演目が披露されました。



踊り 西華会



ハイビスカス フラクラブ



こどもバレエクラブ



ウルトラキッズチアーズ



オリエンタルフェアリーズ



サークルナチュラル



よさこい 友遊会



いきいき太極拳



陶芸



キャッチャートプログラム



パッチワーク



ニュースポーツ体験



詩吟 西部吟詠会



カラオケサークル「穂のか」「ふれあい」「うぐいす」



平和台保育園

9月25日に西部市民センターで「菅江真澄の東北滞在」の講座を開催しました。講師は、県立郷土館の学芸主幹 佐藤良宣さんです。菅江真澄(1754~1829)は江戸時代に今の愛知県豊橋市に生まれました。青森や秋田他の各地の村々を訪ね歩き、その経験をもとに旅行記などの様々な著作を残した文人です。青森県関連では、津軽で16点、南部で6点、下北で6点の著作があります。今回は彼の旅行記『外^{そと}浜^{がは}奇^ま勝^{きしょう}』の解説を中心とした講座でした。青森市関係の著述では、天明5年(1785)8月、善知鳥神社で松前に渡るべき日を占ったところ、「3年待つべし」という神託が降りたので、松前行きを諦めました。寛政8年(1796)4月には、三内で桜を觀賞し、この村の堰の崩れたところから古い瓦やこわれた甕(かめ)のようなもの、人面のある鎧のような土器(土偶?)を目にした、などのエピソードが書かれています。菅江真澄の旅行記には、自身が描いた豊富な絵が挿入されていて、参加者は旅行先の多数の絵図を見ることができました。



旅行先の絵図とその説明

市民センターから

4年振りのセンターまつりが無事に終わりますは一安心しました。始まる前は忘れかけていた記憶を思い起こしながら準備をしたので、本当にこれで良いのかドキドキしながら手探りな状態で当日を迎えました。

コロナウイルスが5類に下がっても対策の観点から縮小という形での開催となり、密空間になるバザーのブースは今回見送らせていただきました。しかし、新たに正面玄関でキッチンカーの出店や西部市民センター20周年にまつわるクイズラリーなどの企画で、センターとしても楽しんでもらうために工夫し、たくさんの方に来館していただき楽しんでもらえたようで大変うれしく思います。



4年ぶりの開会式



お勧め講座・イベントのご案内! (12月)

青森の冬に負けない!!
楽しい身体づくり運動

開催日: 12月16日(土)、23日(土)
10:00~12:00 ※2回シリーズ
対象: 小学1~3年生
講師: 健康運動実践指導者 八戸 由美子
会場: 3階 多目的ホール
定員: 10人
参加費: 無料
準備物: 動きやすい服装、水分補給用ドリンク、汗拭きタオル、内履き

気分が上がる華やか正月花

開催日: 12月27日(水)
10:00~12:00
対象: 18歳以上
講師: たちばな会 工藤 栄子
定員: 10人
参加費: 2,500円前後
準備物: はさみ、雑巾、お手拭き、持ち帰り用の大きめ袋



編集後記

4年ぶりに開催された市民センターまつりでは、市民の皆様の芸能発表や作品展から、熱い思いがひしひしと感じられました。生涯学習活動に熱心に取り組んできた市民の皆様の意識の高さを感じます。今後も紙面をとおして様々な学習活動の様子を発信していきたいと思ひます。

〈取材・編集〉

青森市中央市民センター1F
青森市生涯学習推進員室
TEL 017-734-0164 (内線36)
西部市民センター担当: 田中、奈良原